

## 2 環境学習

県民一人ひとりが環境を正しく理解し、環境に負荷をかけないライフスタイルを実現・実行することこそが環境保全にとって最も重要である。環境保全の実践に結びつけるため、各種講座の開催など環境学習の機会の提供を行っている。平成30年度の環境学習の取組については、以下のとおりである。

### 2.1 彩の国環境大学

県では、平成9年度から環境科学に関する知識を持った専門的な人材を育成するため、彩の国環境大学を開講している。今年度も、環境に関する広範囲かつ専門的な知識の習得を目的として基礎課程、実践課程を開講した。

開講期間：9月1日～11月23日。各課程全10回。受講者：70人。修了者：49人。

#### 開講式公開講座

開催日	講義名	講師名
9月1日	「地球温暖化の現状 ーパリ協定、SDGs、そして第五次環境基本計画ー」	埼玉県環境科学国際センター 総長 島山史郎

#### 閉講式公開講座

開催日	講義名	講師名
11月23日	「外来生物対策の最前線 ーどこから来るのか、いかに減らすのか、なぜ防除するのか？ー」	国立研究開発法人 国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇公一



開講式



閉講式公開講座

#### 基礎課程

開催日	講義名	講師名
9月8日	地球環境 埼玉県の温暖化の実態とその影響 ー変わりつつある温暖化対策ー	埼玉県環境科学国際センター 副室長 嶋田知英
9月8日	環境法学 法は環境保全に役立ってきたか ー道具としての環境法ー	東京経済大学 名誉教授 儀野弥生
9月15日	埼玉の環境 埼玉県の環境の現状と今後の目指す姿 ー環境保全・創造の取組ー	埼玉県環境部環境政策課 主任 加藤考力

開催日	講義名	講師名
9月15日	化学物質 化学物質と私たちの暮らし －健康で環境にやさしい生活をおくるために－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 茂木 守
9月22日	廃棄物管理 ごみと環境と循環型社会	日本工業大学 元教授 小野雄策
9月22日	水環境 川の国埼玉と里川の再生 －地域の川と生きものたちを未来へつなぐ－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 木持 謙
9月29日	地球環境問題 国際協力による森林保全と気候変動対策	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 地球環境部森林・自然環境グループ 鈴木和信
9月29日	大気環境 埼玉の大気環境を知る －光化学スモッグとPM2.5のいま－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 米持真一
10月 6日	環境経済学 地球温暖化問題から考える 私たちの生活と経済	大月市立大月短期大学 准教授 佐藤克春
10月 6日	自然環境 生物多様性を考える －今、埼玉県では何が起きているのか？－	埼玉県環境科学国際センター 担当部長 三輪 誠

#### 実践課程

開催日	講義名	講師名
10月13日	環境学習プログラムをデザインする 環境学習プログラムをデザインする(演習)	学びの広場 代表 小川達己
10月20日	環境学習から環境まちづくりへ 学びと参加をつなげひろげるコーディネーターの役割	NPO法人 エコ・コミュニケーションセンター 代表 森 良
10月27日	持続可能な社会と環境学習 ESD・SDGsを学ぶ	立教大学社会学部 教授 同ESD研究所 所長 阿部 治
11月 3日	生物多様性とは何か 自然のしくみを知る(実地演習)	埼玉県自然学習センター 自然学習指導員チーフ 高野 徹
11月10日	事例研究 危機感が生んだ都市住民を取り込む活動手法について	NPO法人 宮代水と緑のネットワーク 代表理事 茂木俊二
11月10日	環境学習プログラム発表・講評	学びの広場 代表 小川達己

#### 2.2 公開講座

彩の国環境大学修了者フォローアップ講座をはじめ、センター施設を活用した生態園体験教室、県民実験教室を開催した。

講座名	開催日	テーマ等	参加者
① 彩の国環境大学修了者フォローアップ講座 環境保全活動や環境学習活動を行う彩の国環境大学修了者の支援を行うため開催している。	1月26日	講演「殺虫剤(ネオニコ)のはなし」 埼玉県環境科学国際センター 化学物質・環境放射能担当 担当部長 大塚宜寿 活動事例発表「コウノトリも棲む環境」 彩の国環境大学修了生の会 川島秀男	45人
② 生態園体験教室 生態園における観察会や野外活動を通して身近な環境のしくみの理解や自然と生活との共生のあり方における自然環境保護意識の向上を図るため開催している。	4月29日 5月4日 5月5日 6月9日 7月28日 8月4日 11月14日 11月14日 12月9日 2月17日 3月3日	見てみよう感じてみよう 春の生態園 ネイチャーゲームで遊ぼう 環境トーク&ミュージック 大人のためのネイチャースクール 昆虫の標本を作ろう 作ってみようティッシュBOXケース 見てみよう感じてみよう 秋の生態園 環境トーク&ミュージック 実りのリースを作ろう 冬のバードウォッチング 絶滅危惧種を守ろう ～絶滅危惧植物「サワトラノオ」の植え替え体験～	114人 69人 42人 12人 39人 72人 92人 81人 50人 15人 6人
③ 県民実験教室 簡易な科学実験やリサイクル工作を通して環境保全意識の向上を図るため開催している。	4月28日 5月4日 5月5日 6月3日 6月24日 7月16日 7月24日 7月27日 8月2日 8月3日 8月5日 8月9日 8月11日 9月23日 10月21日 11月14日 11月14日 11月14日 12月16日 1月20日 1月27日 2月11日 2月16日 3月24日	作って遊ぼう リモコンロボット 走れGO!GO! ～輪ゴムで動く車作り～ サイエンスショー どっか～ん!爆発実験 廃油からリサイクル石けんを作ってみよう サイエンスショー マイナス196℃の世界 大気の性質を調べてみよう 吹き矢とおもちゃで学ぶ力学入門 ～プラトンボとブンブンゴマ作り～ 土壌の性質を学ぼう 富士山のとっぺんの空気は何が違う? 水の性質を調べてみよう サイエンスショー 化学反応! 大気汚染を目で見てみよう 光の不思議!偏光万華鏡を科学しよう 身近な物の中の化学物質を調べてみよう 水の性質を調べてみよう サイエンスショー 空気ってチカラもち!? サイエンスショー モクモク ～ドライアイスから出る白い煙の正体は?～ 自然塩を作ろう 廃油からクリスマスアロマキャンドルを作ろう 錯覚実験でさぐる脳のひみつ 香りの石けんづくり 草木染めをしてみよう ダンボールクラフトASIMOを作ろう 空気で遊ぼう!考えよう	142人 165人 341人 52人 315人 41人 57人 54人 69人 68人 252人 41人 121人 20人 105人 251人 365人 54人 45人 58人 40人 49人 101人 75人

(36講座、計3,518人)

### 2.3 身近な環境観察局ネットワーク

環境に関心がある県内の個人や団体に、簡易な環境調査法を学習する機会を設けている。観察局数:39局(平成31年3月31日現在)。

身近な環境観察局では、年間を通じて大気・水質・酸性雨・一般指標生物・ハンノキとミドリシジミの調査を行っている。

平成30年度は大気測定会を5回実施した。また、身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会を実施し、観察局間の交流を図った(2月23日 参加者21人)。また、次年度の新しい調査として実施する「クビアカツヤカミキリ」について加須市内4地区において説明会を実施した。(参加者 160人)

### 2.4 研究施設公開

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日に研究施設の一般公開を行った。

開催日		内容	参加者
5月 5日	ゴールデンウィーク	普段非公開の研究施設を特別に公開し、研究員が解説や実演を行った。	485人
8月 8日	夏休み		151人
11月14日	県民の日		562人

(計1,198人)

### 2.5 その他

ゴールデンウィーク、夏休み、県民の日等に各種イベントを実施した。

イベント名	開催日	内容	備考
①ゴールデンウィーク特別企画	4月28日	・ オリエンテーリングクイズ	参加者延 7,037人
	～ 5月 6日	・ サイエンスショー ・自然観察会 ・ 各種環境講座 ・研究所公開	
②夏休み特別企画	7月16日	・ オリエンテーリングクイズ	参加者延 8,503人
	～ 8月26日	・ サイエンスショー ・リサイクル工作 ・ 研究所公開 ・各種環境講座	
③県民の日特別企画	11月14日	・ サイエンスショー ・自然塩作り ・ 自然観察会 ・オリエンテーリングクイズ ・ 研究所公開 ・どんぶり工作コーナー	参加者延 4,259人
④上映会	4月28日	・ 恐竜大研究	参加者延 2,651人
	～ 3月31日	・ 奇跡のパンダファミリー ・ プラネット・ダイナソーほか	

(計22,450人)